

耐震情報連絡会(第61回)

平成20年 7月22日
原子力発電安全審査課

1. 耐震・構造設計小委員会、WG、サブGrの開催予定

①合同WG

7月23日 (第14回) 17:00~19:30

8月 6日 (第15回) 17:00~19:30 (予定)

②構造WG

7月24日 (第17回) 9:30~12:00

8月 8日 (第18回) 14:00~17:00

③合同WGサブグループ

Aサブグループ 7月27日~7月29日 志賀現地調査

Bサブグループ 第4回 7月29日 15:00~17:30

Cサブグループ 第4回 7月22日 14:00~17:00

④構造WGサブグループ

Aサブグループ 第5回 7月31日 14:00~17:00

Bサブグループ 第3回 7月25日 9:30~12:00

Cサブグループ 第3回 7月22日 16:30~19:00

2. 柏崎刈羽原子力発電所

1) 合同WG

今後の課題

(柏崎)

・長岡平野西縁断層帯

長岡平野西縁断層帯については、断層傾斜角50度の断層モデルで評価しているが、その根拠が不十分、さらに検討することとされ、現在検討中。

・F-B断層

F-B断層の長さは最大34kmとしているが、その北端の測線において、断層による変形はないとしていたところ、委員から、変形がわずかに見られることから、その長さを36kmに延ばすべきであるとの意見があった。36kmとすると、基準地震動に変更が生じる可能性有り。

・不確かさの考慮

応答スペクトルによる手法及び断層モデルによる手法について不確かさを何をどこまで考慮するか、保安院の統一的理解を示すこととされた。

保安院見解案—別紙参照

(反映事項)

・中越沖地震の観測地震動の分析結果を踏まえ、震源特性(①短周期レベル、

②放射特性(上盤効果))及び地下構造特性(①不整形性、②厚い堆積層)につ

いての他のプラントへの反映事項(素案を作成し、事業者に意見を求めているところ)を整理中。

2) 構造WG

今後の課題

(柏崎)

・7月14日の構造WGにおいて、4号機の原子炉建屋において観測された地震動の水平方向の応答スペクトル(二山ピーク)や0.1秒付近の上下動の応答スペクトルにシミュレートさせるためには、水平及び上下方向の床バネなどの実態を評価することによって、シミュレート可能であることをJNESから説明し概ねの了承が得られた。今後、JNESの分析結果を踏まえ、東京電力においてシミュレートを実施し、その結果をもとに、7号機を含め機器の健全性影響についてチェック。さらに、これをバックチェックに水平展開する必要性について検討。

3. 大間原子力発電所

原子力安全委員会鈴木委員長から、「地質・地盤に関する安全審査の手引き」の決定の際、大間についても、同手引きに沿った調査が行われているか、7月を目途に検討を求められており、現在、事業者において検討・整理中。

4. その他

近藤正道「原発耐震設計審査指針改訂に係る評価結果の中間報告に関する公開質問状」について、7月3日に対応。内容は、耐震バックチェック中間報告について、各サイトの活断層の地震動評価手法について横断的に比較し、活断層のマグニチュード、地震モーメント、断層モデルのパラメーターに用いる式の考え方について差異や根拠について専門的な指摘、特に、事業者は、地震モーメントが小さくなる算定式を適用していると指摘。これらについては、地震モーメントなどのパラメータの妥当性については、今後、委員会で詳細に評価と回答。(本件については、「不確かさの考慮」と関連する。)対応に結果、次の事項について回答を求められている。

- ① 保安院は、昨年12月、孤立した短い活断層について少なくともM6.8の地震を考慮するよう指示を出したのは、「断層幅が飽和すれば地震断層が現れる」ことを前提としているが、地震断層が現れた地震において震源断層の長さや幅がほぼ等しくなるデータを示すこと。
- ② ①のようなデータがあるとなれば、stirlingによる「地震断層が現れている震源断層の長さは20km(M7.0)より小さくならない」という知見との整合性を示すこと。
- ③ ②の整合性が示すことができなければ、孤立した断層の長さを飽和した断層幅に等しいとする根拠を示すこと。